



社会活動家

加藤 南美 Kato Minami

1991年三重県四日市生まれ。十代に東南アジア諸国へ一人旅に行き、そこで目の当たりにしたカンボジアの孤児院に住む「親もいない」「支援もない」それでも目を輝かせ夢を語る子どもたちに「20年後の未来を共に創り、自由に未来を選択する環境を創りたい」という思いから、「NGO SEED OF SMILE」を設立。現在は独立を果たし、カンボジアの貧困女性の自立支援プロジェクト「NATURAL VALUE」を立ち上げる。母親が安心して子育てをしながら働ける環境創りを目標に活動中。



当たり前前の幸せの価値観を 共に創造する

(昨年、三重県農業研究所で開かれた講習会より)

カンボジアの貧困女性の自立支援プロジェクト「NATURAL VALUE」とは、“人が幸せに生きる為の、当たり前前の幸せの価値観を共に創造する”という理念の元に、2014年4月に立ち上げました。この当たり前前とは、当たり前前に学べる幸せ、当たり前前に食べる事のできる幸せ、当たり前前に愛し愛される事のできる幸せ、当たり前前に良い環境で働ける幸せ、当たり前前に未来を創造できる幸せ、そんな当たり前前の価値観を私たちは共に創っていくということです。

カンボジアの貧困層のお母さんたちに対する技術提供プロジェクトとして、鞆作り、小物製作をやっていて、国内外に輸出して販売しています。そこで得た収益で最終的には託児所を開設することが目的です。

カンボジアで働けないお母さんたちのもっとも多

い理由が、子どもを預ける場所が無いということです。もちろん保育園や幼稚園、国が経営するプライベートスクールはあるんですが、働かなければ生活がしていけないお母さんたちが払える月謝ではないのが現状です。安い価格で高いクオリティの教育が受けられる託児所を目指しています。

託児所の中では、オーガニック給食の提供とお母さんたちに対する意識改革ということで、栄養学のセミナーを月一回開催したり、命に関すること、教育のありがたみや大切さをお母さんたちに伝えていきたいと考えています。

いくら学校ができて、先生たちが学校に来てくれるようになって、自分の子どもを学校に行かせようというお父さん、お母さんの想いがなかったら、箱があっても行けないと思います。その部分の意識改

革を一緒にやっていこうと思っています。

栄養学のセミナーと言っても文字の読み書きができないお母さんたちも多いので、子どもたちをお迎えに来るついでに楽しめるような紙芝居や、読み書きのきっかけとなるようなセミナーも開催しないといけません。ポイントカードを用意して、10回セミナーに来てくれたらいっぱいのおrganic野菜がもらえるなど、継続できる仕組み作りも必要です。



今から私たちが行っていくプロジェクトは、企業様との提携を多くした事業型NPO・NGOを目指しています。今までは、寄付金集めてますよ、収益あげてませんよ、社会に貢献してますよ、善い事してますよというのが海外支援NPOのイメージだったと思います。

しかし、それではいつまで経っても日本側が頭にならないとできない仕組みです。共に運営していく力を現地にいる彼らですべて賄っていくようにしないとイケない。いくら日本に対するパフォーマンスが低かったとしても、それはそれでOKだと思っています。「何の為に私たちは団体をやっているか」という部分が一番大切であると思います。

最終的には、こういったプロジェクトすべてをカンボジアの人に渡すところが目標です。いかに早くこのプロジェクトを無くすか。この支援が必要な無い世界がカンボジアにとって良い状況であって、いつまで経っても支援団体がいて、「私たち支援開始して〇〇周年です」と言っているようでは本質が違うと思います。

私たちはいかに早く「〇周年で解散になりました」と言えるような支援と仕組みづくりをしていかなければならないと思っています。 (第16号へ続く)